

大阪市密集住宅市街地重点整備プログラム（概要版）

背景

【背景】

防災に関する意識の高まり

- ・これまでの大震災の教訓
- ・南海トラフ巨大地震による震度分布および被害想定等の発表（H24.8内閣府）
- ・区独自の防災計画の策定

区ごとの主体的な取り組み

- ・「ニア・イズ・ベター」の徹底と、成果を意識した効果的・効率的行政運営

従来の発想にとらわれない対策メニューの多様化

【参考】東京の「木密地域不燃化10年プロジェクト」の取り組み

【これまでの取り組み】

「密集住宅市街地整備の戦略的推進に向けての提言（H20.2）」を踏まえた取り組みを実施

密集住宅市街地整備については

「都市レベル（地震による被害の拡大を防ぎ、都市機能を保全する）」

「地区レベル（生活空間の防災安全性を高める）」

これら両面からの取り組みを実施

地域や市民との協働による地域特性に応じた集中的な取り組みが必要

密集住宅市街地整備のスピードアップに向け、早急に対策が必要

H24.11 密集住宅市街地整備推進プロジェクトチームを設置

取り組みの

ソフト及びハードの両面から多様な取り組みをモデル的に実施

モデル事例を踏まえ、同様の課題を抱える他の地域へ発展的に展開

国の住生活基本計画で掲げられている目標に加えて、平成32年度に向けた目標を新たに設定

平成32年度に向けた目標

延焼危険性・避難困難性の改善

優先地区の21防災街区のうち半数以上において以下の指標について目標を達成

不燃領域率 40%以上

（不燃領域率が40%以上になると市街地大火への拡大が大幅に抑制される）

地区内閉塞度 レベル2

（地区内閉塞度レベル2とは、避難確率97%以上であり閉塞危険性が低い）

防災骨格の形成

優先地区の防災骨格形成率を80%以上確保

（防災骨格形成率：骨格路線の整備完了延長 / 骨格路線全延長）
骨格路線とは防災上の骨格となる都市計画道路

目標達成に向けたハード面の整備に加え、減災の観点から避難訓練や防災マップづくり等のソフトの取り組みを継続することにより、災害に備える

ソフト面を中心とした 防災・減災に関する取り組み

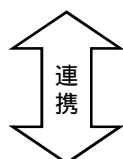
連携

ハード面を中心とした 目標達成に向けた取り組み

優先地区を含む各区において、防災意識や地域防災力を高めるため、自助・共助に繋がる防災・減災の取り組みを実施するとともに、これらの取り組みと連携して密集・防災施策の推進に向けた普及啓発を効果的に実施する

【各区における防災・減災の取り組み】

- ・区の地域防災計画、防災マップ、災害時の避難計画の策定
- ・地域防災リーダー研修、防災訓練、防災学習、啓発事業
- ・災害時要援護者情報の把握と整理 等



【密集・防災施策の推進に向けた普及啓発】

- ・密集住宅市街地解消に向けた具体的施策への誘導（ワークショップや個別相談会の開催、事例の紹介等）

優先地区を中心に、延焼危険性・避難困難性の改善や防災骨格の形成に向け、本プログラムでの検討を踏まえた整備を、エリアを限定して効果的・効率的に進める。また継続事業についてより一層積極的に推進していく。

【都市レベルの取り組み】

- ・都市の防災骨格を形成する都市計画道路の重点的な整備

【地区レベルの取り組み】

- ・公団混雑の解消等による老朽住宅の建替促進
- ・都市計画道路の整備に併せた沿道整備による防災性の向上
- ・地域主導による処方箋型防災まちづくり
- ・地域事業者と連携して行う、地域の防災性向上をめざす建替え等支援
- ・老朽住宅の建替促進・除却等への支援強化

【継続事業】

- ・建替建設費補助制度
- ・狭あい道路沿道老朽住宅除却促進制度 等

モデル事例を踏まえ
同様の課題を抱える
他の地域へ
発展的に展開

今後の取り組み